



# 川崎 民生委員 情報 見 童 委 員

川崎市民生委員児童委員協議会 川崎市中原区上小田中6-22-5

発行人：森 昭司 編集人：小谷田 實



震災遺構  
浪江町立請戸小学校



## 目次

常任理事 退任のあいさつ	.....P2-3
各区民児協・主任児童委員部会 ~活動を振り返って~	.....P4-7
令和4年度 表彰の紹介	..... P8
理事視察研修の報告	..... P8
編集後記	..... P8



## 退任のあいさつ

会長 高津区  
森 昭司

12期36年間にわたる民生委員児童委員を退任することになり、振り返ると仕事・学校の役員・地元の行事・家庭の出来事等とともに、様々な記憶がよみがえってきます。

平成27年5月に高津区民児協の会長・市民児協常任理事となってからは忙しく動いておりました。まず、関東ブロック大会では長野県軽井沢市、さいたま市、新潟県湯沢町、山梨県甲府市の大会に参加し、令和元年には川崎市が当番市となって「川崎日航ホテル」で無事、開催することができました。それ以前は、川崎には宿泊施設が不足していたため、箱根で開催していましたが、初めて市内で開催できた喜びは大きかったです。その後、コロナの影響で静岡市、千葉市での開催が出来なくなり、今年、3年ぶりに浜松市で開催された大会に参加することができました。全国大会では平成23年の青森大会、26年の和歌山大会、27年の富山大会と参加し、28年の香川大会の帰りに岡山に寄り、後楽園にある笠谷信一氏の銅像の前で100周年記念大会の写真を撮ってまいりました。30年の沖縄大会の際には、台風のために飛行機が飛ばず延泊になり、思い出深い大会となりました。

制度創設90周年の時は武道館、100周年の時はビッグ

サイトで大きな式典や分科会に参加し、素晴らしい経験をさせていただきました。全国各地の委員さんと知り合いになることができ、それからは年賀状が九州から、受賞のお祝いが北海道から届き、嬉しい限りです。しかし、令和2年の初頭からはコロナがまん延し緊急事態宣言の発令などで、大会の中止、縮小が相次ぎました。今年は自分自身最後となる全国大会が名古屋市で開催され、再び日本全国の民生委員児童委員と交流を持つ事ができました。

最後に個人的なことで誠に恐縮ですが、春の叙勲で瑞宝単光章を受章する栄誉に浴しました。身に余る光栄で喜びに堪えない次第でございます。これもひとえに、皆様方の心温まる御指導の賜物と、衷心より感謝申し上げます。

今後は、この栄誉に恥じることもないよう、行政をはじめ関係各位と協力しながら一層精進し、微力ながらもだれもが住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉のまちづくりに尽力していく所存でございます。何卒、変わらぬ御温情を賜りますようお願い申し上げます。



## 地域特性を生かした活動の躍進を期待します

副会長 川崎市  
相川 隆俊

5期15年間、川崎市の民生委員児童委員として地域福祉活動に、また、川崎市民生委員児童委員協議会の健全な運営に微力ではありますが、一生懸命取り組んでまいりました。

また、常任理事として、民生委員児童委員活動（以下、委員という）の現状や役割、住民や関係機関との協働する役割、代弁者としての役割、福祉の理解を広める役割、福祉のまちづくりの推進者として、委員の本来の役割等の向上を図るため、積極的に行政及び関係機関の皆様と意見交換・情報交換を行ってまいりました。

私は、常任理事会や関連する様々な会議等で、「本市は多摩川に沿った、東京と横浜市に隣接した細長い地域で、各区の歴史や風土、生活や住宅環境等多様性のある集合体なので、活動の実践に当たっては、常に各委員は、担当地区の状況を十分に把握し、地域特性を生かした活動に取り組むことが重要ではないか。」と一貫して発言してまいりました。

しかし、令和2年初旬に始まる新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、各地区の委員の皆様が構築されてきた活動が、感染防止対策のため一時、停止されてしまいました。特に、地区民児協の定例会の開催方法・日常の見守り活動・各種研修会・子育てサロン・地域の保育園や小中学校との情報交換等に多大な影響がありました。この間、各地区民児協では、コロナ禍にあっても様々

な工夫を凝らした委員活動に取り組んでまいりました。

また、常任理事として、全国民生委員児童委員大会や関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会などに参加させていただく機会があり、全国の民生委員児童委員の皆様と意見交流を図り、見聞を広めることができました。平成30年の沖縄での全国大会では、台風のため飛行機の欠航や遅延により、ホテルや空港に足止めされるという、大変貴重な経験をさせていただきました。その後の全国大会や関東ブロック大会についても、台風やコロナ感染症対策の影響で、残念ながら直接大会会場での意見交流を図ることが出来ませんでした。

民生委員制度は創設から100年を経過し、戦前、戦後、高度成長期等、時代の変遷とともに民生委員活動は大きく変化してきました。今も時代状況は変化し、新たな課題、問題等が生じていると感じますが、皆様のますますのご活躍と躍進を期待いたします。

川崎市民生委員児童委員協議会の皆様、そして区社会福祉協議会事務局・市社会福祉協議会事務局・関係行政機関の皆様、長い間、本当にありがとうございました。



## 24年間を振り返り

川崎区  
平川 悦子

私は平成10年4月に民生委員児童委員（以下、委員という）の委嘱を受けました。前任の委員の方が、体調不良となられた為、任期途中での交代でした。引継ぎ資料もなく、不安な日々だったと記憶しております。今まで24年間、仲間の委員さん達と支え合い、時には励まし合い、繋がりを大切に活動してまいりました。今期、退任するにあたり、書類や研修旅行の写真を整理しながら、色々な事柄が浮かんで来ました。

大きな出来事としては、平成23年の東日本大震災がありました。震災発生の日の夕方、余震を気にしながら、一人暮らし高齢者の安否確認のために訪問を続けたことを思い出しました。大変貴重な経験でした。

その後、2期、会長職を引き受けました。1期目は、まず、今までの事業を引き継ぎ、実行していくこと、そして、地域活動に協力していくことだけを考え、委員さん達と行動しました。

2期目は、当初から新型コロナウイルスと向き合うこととなり、行動が制限されることが多くなった為、新任委員さん達のサポートをどうしようかと悩みました。コロナ禍も気になるころでしたが、地域みまもり支援センターの保健師のバックアップもあり、令和2年12月には子育てサロンのクリスマス会を開催しました。決断と勇気

が必要でしたが、皆さんに喜んでいただき無事に終了し、以後、活動を続けております。その他、地域みまもり支援センター主催の事業で、外国人のお母さんたちも参加される「子育て交流会」や「クリスマス会」に中央第1地区民児協として協力しました。それぞれの国のこと、子育てに関することなどで交流を深めることができました。子育て支援活動として、川崎区社会福祉協議会を通して、食糧支援を続けました。また、新たな活動ですが、児童部会が中心となり、古切手や使い損じのハガキ等を収集し、ユニセフ募金への協力を始めました。地味な活動ですが、今後も続けていきたいと思えます。

そして、個人活動ですが、3年前の台風19号が去った翌朝7時頃、地域を徘徊している高齢の女性に気付き、結果的に保護をしました。無事に息子さんに連絡ができ、感謝されたことが私の最後の大きな事例です。

24年間、色々とありましたが、無事、任期を終えることができました。ご指導くださった関係機関・地域の方々、お世話になりました。感謝申し上げます。仲間の皆さん、いつも笑顔でありがとうございました。



## 民生委員児童委員の退任にあたり

多摩区  
近藤 充紀

平成13年12月、56歳の時に民生委員児童委員（以下、委員という）の委嘱を受け、21年間にわたり従事してまいりました。芝居の中の黒子みたいなもので、高齢者宅を中心に見守り、時には話し相手にもなりました。

コロナ禍で制限が多い中、できることを地道に続けてきました。菅町会の副会長を2期4年間経験しましたが、委員になるまで高齢の地域住民との交流する機会はほとんどなく、最初は何を話せば良いか戸惑いました。

ある日、近所のアパートで火災が発生し、委員として何をすべきか、区役所の日赤担当者と連絡を取ったところ、被災者には毛布等の用品が配布されるとのことが解りました。現地に確認のため赴いて、警察官に委員であることを告げ、現状を確認しようとしたところ、被災者はオーバーステイの方々であることで救済物資は渡さないようにと言われました。このアパートにはアジア系の方々がいることは確認していましたが詳細までは把握出来ていませんでした。委員として、入国管理局と連絡を取り合って調査する権限はないので、事故等が発生するまで、どのような方が居住しているか解らないのが現実です。

また、郵便受けに新聞がたまっている家があると

の連絡を受け、警察官立会いの下、調査しましたが、65歳以下なので老人調査票もなく、一見したところ事件性も見受けられないことから、無理に立入ることはせず、警察官に確認をお願いし、その場を退きました。翌日連絡があり家の中で住人が病死していました。『委員はそこまでしかできない』と歯がゆい側面もありますが、極力近隣の方々とも知り合いになり、不審な点があったら連絡をしてもらえよう、この地域の委員である旨をPRしておくことの重要性を感じました。

母子家庭の調査依頼については、相手が下着姿で玄関に出てこられることもあるので、男性委員であれば女性委員と同行する必要があります。本当の母子家庭なのか判断に迷うケースもありますが、深くまで立入り出来ない調査もあります。

コロナ禍となって以来、対面で会う機会が少なくなり、どのような人が地域にいるのか見えにくくなっています。しかし委員は地域の縁の下の力持ち的存在であり寄り添い、感謝されることも多いです。欠員を無くし、充足率を高められるよう協力していきたいと思えます。



## 退任するにあたって

渡田地区  
深沢 和彦

この度、退任するにあたって25年間の思い出等を文章にしてとのことです。まず平成9年に元総理大臣の小泉純一郎氏が厚生大臣（当時）の時に委嘱されて以来、宮下、坂口、尾辻、舩添、細川、田村、塩崎、そして加藤厚生労働大臣まで9人の大臣から委嘱されました。民生委員児童委員になった頃の事を思い出すと先輩委員についていくのが精一杯で、言われたことをこなすだけでした。その頃の会長は総務と呼ばれていて、会議で総務と目が合うと質問されそうで怖かった事を覚えています。

仕事としては第1が安心箱を各自治会に配布し一人暮らしの高齢者が入院時に必要なものを安心箱の中に入れておき、救急時に持参する事です。当時は町会でも予算を付けて一人暮らし高齢者に配布致しました。第2は福祉協力員を各委員に5人位つけて情報をもらう事です。社協と協力して渡田民児協では100人位の協力員がおります。年1回講演会と各自治会で情報交換を行っています。この事例を発表した時の事は今でも覚えています。第3は当時の災害時一人も見逃さない運動で一人暮らし高齢者、高齢者世帯、障害者等を災害時に安否確認して救助するシステムをつくり、マップに色分けして落とす、そして毎年2月に更新する。こうしてこの運動を継続していく事です。

楽しかった事は県外視察研修会です。全員が1,2日地元を離れるのですから見守り対象者は協力員に依頼して行きます。全国をほぼ視察させてもらい識見を深めると共に委員相互の親睦と信頼感を得る事が出来ました。又苦勞した事は一人暮らし高齢者の対象者が認知症になり、かなり進行していき親族にも連絡したり、家の鍵を預かったりゴミ屋敷になっていたので掃除、整理したりして生活支援を行っていたのですが最後はグループホームに移り生活する事になりました。あと1つ年末、年始になると役所が休みになるので保護対象者の安否確認依頼を受けます。夜になると電気がついていないか朝になると新聞がたまってないか確認した事もなつかしく思い出されます。

そして今は我が町の現状を再分析してどうすれば安心で安全な地域社会を築けるか、又将来子ども達が住みやすい地域に出来るかを考えています。何れにしても25年ですから亡くなった人もいますし、新しく同僚委員になった方々も多くいます。皆良い人達でした。大過なく過ごせたのもこれまで一緒にやってきてくれた同僚委員のお陰と深く感謝しております。重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。

## 東日本大震災とコロナ禍の12年間

御幸東第1地区  
多田 毅

2010年～2022年の12年間を振り返ると、始めと終わりがあって、その間の10年間は、何をしていたのだろうかと思うほど平穏な民生委員児童委員活動でした。民生委員児童委員になって1年目、数回の研修を受けた頃“東日本大震災”が発生しました。私は何もできませんでした。現地での委員の献身的な活動を見聞きしていると、どこまでが委員活動なのかと疑問に思いました。その答えは、その後の研修ですぐに出ました。すべての研修に共通していたのは、“繋ぐ”と“一人で行動しない”の2つです。しかし、この2つを実行することなく、コロナ禍の影響もあり初任から11年間はあっという間に過ぎました。このまま大過なく委員を終えられるかと思っていた頃でした。

2021年8月から9月にかけて2件、2022年3月から5月にかけて2件、これまでに蓄積した委員として、どう動くかを試される事が発生しました。

1件目は、高齢者への届け物があったので訪問したところ、何度行っても留守、近所に聞いてもわからない、他の委員と相談し、1週間後に警察へ連絡。思いもよらぬ結果となり介護施設へ入所することになりました。

2件目は、近所の方が慌てて私を呼びに来たので、

急いで行くと高齢の方が家の中で倒れていました。近所の方が起こそうとしたのを止め、救急車を呼び、息子さんへ連絡しました。

3件目は、2022年3月、近所の方が私を呼びに来ました。隣人が妄言を発しているとのことでした。研修等では習いますが実際に聞くのは初めてでした。近所の方数人と協力して落ち着かせ息子さんへ連絡、勤務先から急ぎ来てもらい、今までの状況を説明したところ、息子さんは親の状態を見てよく理解してくれました。

4件目は、路上で高齢者を介護している若者に遭遇、近くの知り合いから車椅子を借りて自宅へ連れていきました。すぐに担当地区の委員より近くに住む家族に連絡をしてもらいました。

これらは、日頃近所の方々とコミュニケーションがあったからだと思います。

何もできなかった東日本大震災から始まりコロナ禍でも周囲の人と協力し、1つひとつを解決できた12年間でした。

今後もよりよいまちづくりを心がけていきたいと思っています。

## 広報部の活動を振り返って

小杉第2地区  
末田 優理

平成19年、退任する母の後任が決まらず、見つかる迄として民生委員児童委員をお受けし、15年が経とうとしています。それ迄母の活動を目の当たりにし後方支援等をしていましたが、実際の活動では戸惑う事ばかりでした。個人情報保護法の影響は大きく、地域の方々の情報が年々入りにくくなり、気軽にお話しを伺いに行く等の活動も難しくなってきました。特にこの3年間は、新型コロナウイルス感染拡大による更なる活動の制限により、益々心配事が増える中でどの様に活動したら良いか迷いがありました。それでも何とか続ける事が出来ているのは、先輩方のご指導をはじめ、地域の方から頂く情報、地域包括支援センターの方々等皆様のご協力によるものと、感謝申し上げます。

これまでの活動の中で、広報部に属した9年間は得るものが多い日々でした。小杉第2地区民児協では、民生委員児童委員の活動内容を広く地域にお伝えする為、平成14年から「心」と題した独自の広報紙を製作し、コロナ禍も「こんな時こそ必要な情報をお届けしなくては」と今日まで休まず継続しています。活動内容の紹介の他に地域の紹介をするコー

ナー、お知らせ事項、知恵袋等の雑学も載せ、親しみやすいものとなる様、編集会議で意見を出し合い形にして行く過程は、大変でしたが楽しい活動でした。行政関連部署や学校、地域で活動されている方等に取材し、数々の貴重なお話しを伺いました。素人のつたない問いかけに快く応じて下さった皆様には感謝の念で一杯です。部員は輪番制で、私は卒業しましたが、メンバーが変わる度に新しい体制でそれぞれの個性を生かし、これからも地域の皆様の為になる親しみやすい広報誌をお届けして行けると思います。デジタル時代においても、紙媒体の強みを生かし、地域の方々との暖かい絆になる事を祈ります。



## 橘第1地区民児協丸

橘第1地区  
小宮 秀樹

令和元年12月、新任委員12人を含む総勢32名を乗せた「地区民児協丸」が、大海原へ漕ぎだしました。年齢や職業が様々であることはもちろん、性格や考え方も委員それぞれ違います。だからこそ対話を心掛けたい、対話こそが人を理解する上で何より大切ということをお送り迎会の時に、話させていただきました。定例会では、より多くの方が発言できるような雰囲気作りを目指しました。

最初の定例会では、「民生委員児童委員初めの一步」ということで、1.委嘱ってどういうこと?2.民生委員は児童委員なの?3.民生委員児童委員協議会って何、その役割は?の3点について特に説明時間を多く取り、理解していただくよう努めました。

そして、年が変わってさあこれからという時に、新型コロナウイルス感染症があれよあれよという間にまん延してしまいました。1期目の委員にとっては初めての総会が開催できるか悩ましい事態になり、役員一同その対応に苦慮したことを覚えています。結局書面での評決になり、残念でなりません。

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が繰り返され、これまで行ってきたミニデイ（身体が不自由な方のデイサービス）や会食会をはじめ、学校地域連絡会

等が次々に中止せざるを得ない状況になりました。そんな中でも毎年5月になれば赤十字会員増強運動、8月から9月にかけて区社会福祉協議会の賛助会員の募集、10月には共同募金運動、11月は年末たすけあい募金運動と続き、「民生委員はお金を集めることばかり」という声をよく耳にしたものです。振り返ってみますと、こんな時期だからこそ赤十字や共同募金について、何故民生委員児童委員がここまで関わるのか、もう一度立ち止まって考えることが必要だったかもしれません。時間はあったのですから。

緊急事態宣言発令時以外は定例会を開催してきましたが、昨年の活動強化方策の策定作業を始めたころから、地区民児協としてのまとまりもでてきました。グループワークが進むにつれ、意見を出し合い、まとめ、発表し、共有していく中で、ようやく一人一人の人柄に触れた思いでした。このことが一体感を生むのに大きく作用したと考えています。

こうした努力や成果を生かし、実践につなげていくことが大切になります。今よりも少しでも前へ進むために、力を合わせて変わること恐れず、歩いていきたいと思っています。令和4年12月1日、乗組員を変えて「地区民児協丸」が、再び出航いたします。

## 3年間の活動を振り返って

向丘第2地区  
高橋 勝巳

退任に当たり新型コロナウイルス禍「非常事態宣言」以降、総会議案も“書面決裁”や行事の中止と延期で思い通りに活動できない日々が最近まで続きました。三密・マスクに悩まされながらも委員同士対面開催で交流をしてまいりました。三役会は必ず開催して互いに摺合せをしてきました。定例会は年2回休みの10回開き委員同士の意見交換ができました。各委員の個性はありますが25名全員で決定した、ワークシートの“地域版活動強化方策”も作成出来ました。グループ等を編成しましたが得意分野で持ち場を決め完成させました。区役所を中心に各団体及び窓口等10年目標で次へ3年ごとに引き継いでいかななくてはなりません。

又、向丘地区は宮前区役所鷺沼移転の真っ只中で出張所・街づくりアイデア会議に3役が参加し3回会議に臨みました。各団体のメンバーと意見を出し合いとても緊張したことを思い出します。高齢化も少子化も人が大切です。相手を守ることが自分を守ることと思います。頼り頼られる間柄になること、それが認知症・ヤングケアラーの手助

けではないか、その様に思います。団塊の世代がもうすぐ後期高齢者になり、ますます高齢化が進んでいきます。そんな中で少しでもお役に立てればと願っています。研修会等でも勉強させていただきました。

年末に入り赤い羽根共同募金・年末たすけあいも例年の如く始まります。分断の時代を平和な社会に変える為にも見守っていきたいと思います。

私ごとですが3年前心臓弁膜症にて心臓弁を取り替えました。全ては医師に委ねて確かな検査準備をし手術に臨みました。順調と思っています。来年は80才!地域にちょっぴり役に立てればと思っています。これまで本当にありがとうございました。



## 稲田東地区民児協のコロナ禍での活動報告

稲田東地区  
大岡 祥浩

コロナ禍の中、民生委員児童委員（以下、委員という）の活動が著しく制限され、人とのふれあい、地域のつながりの希薄化などが懸念されています。その状況では、委員活動も充分行えず、地域（老人会等）のふれあい、小中学校の運動会等にも参加できませんでした。

そのような状況においても、定例会は委員の力量アップのため、実施しました。月1回の定例会において、信条朗読と議長は3つの部会（総務部会、児童部会、身障児高齢者部会）の持ち回りで、会場の準備を含めて、各委員に経験していただいています。尚、令和2年4月に緊急事態宣言が発令され、その年の定例会及び総会は、資料を配布し、書面審査としました。それ以降は、コロナ対策をし、月次の定例会を実施し、各委員の連絡を徹底しました。尚、委員全員（41名）が参加しても密にならないよう、会場は50名程度収容可能なところになりました。

令和3年7月には、定例会終了後に地域毎に分かれて、地域版活動強化方策の検討を以降計4回実施し、まとめました。11月には、認知症サポータ

養成講座を実施し、オレンジリングの取得を図りました。

令和4年4月には、定例会、総会、食事会を実施し、懇親を図りました。

今後の課題として、ある委員の地区内に100世帯のマンションが2棟、建設されています。追加するか分割するかどうかの検討を余儀なくされました。政令指定都市の場合、220世帯～440世帯当たりに委員は1名となっています。当地区は、一人当たり平均567世帯で、委員39名中30名が超えているのが現状であり、大幅にオーバーしている委員もいます。今後、どこかの時点で見直しが必要です。



## 退任する私の感謝のつぶやき

麻生東第3地区  
田辺 明子

今年11月で丸6年の民生委員児童委員生活を卒業します。感慨深いものがあります。

私は17歳の時東京からこの麻生区に移り住み60余年住み続けてきました。高校卒業から68歳まで働いていました。仕事と職場と趣味の友人達が私の世界でした。これだけ長いこと暮らしてきた地元にはほとんどつながりがなかったのです。そんな時、町会の役員さんから民生委員児童委員（以下、委員という）のお話が来ました。地元を知り合いを増やそう、やってみようと、71歳で委員デビューをしました。はじめて社会福祉協議会やいこいの家の活動にも参加し、様々な経験を持った方々と貴重な交流ができました。委員活動では専門家による講演、研修、施設見学などをたくさん経験させていただきました。知り合いも増え、地元で縁の薄かった私の世界が広がったのです。一緒に活動して下さった皆様に感謝の気持ちがいっぱいです。残念なことは2期目の3年間はコロナ感染を避けるために活動が自粛され、ふれあいサロンの集まりや社会福祉協議会高齢者部会の小学生との高齢者体験交流などが中止になったことです。子育てサロンが再開し、月1回の会に多数の親子が来てくださっていることは、皆がなんらかの繋がりやふれあいを求めているからなのではないかと考えています。さまざまな活動が通常の状態に戻りみんなの笑顔が増えることを願っています。

不安もありました。委員になったけど、私はお役に立っていないのではないかと実は心配でした。地元には顔見知りが少ないためか相談ごともなく、決められた活動だけの日々です。そんな私の不安を先輩委員の方が経験談や適切な助言で励ましてくださいました。こんな私でもいいのだと気持ちが楽になりました。ある研修で、委員は相談者を関係機関や専門機関へ繋ぐ「つなぎ役」であるとお話がありました。サービスを直接提供するのではなく関係機関につなぐこと。気持ちにゆとりができ、これならやっていける。それからは自然体で頑張ってきました。

私は自分の生活を充実させ、活動の世界を広げたいという身勝手な動機で委員になりましたが、本当にやって良かったとしみじみ思っています。

これからも委員を続ける方、新たに委員になれる方、どうか無理せず、楽しんで、地域の人たちと繋がり、世界を広げてください。

私の感謝のつぶやきを読んでいただき有難うございました。



## この3年間を振り返って

主任児童委員  
五嶋 竹美

令和元年12月からの3年間は、コロナ禍の影響で、誰もが立ち止まり戸惑う中で、悩み多き日々を過ごしたことでしょう。

私もこの期間、川崎区の主任児童委員部会の部会長となり、部会としてどのような活動ができるか、考え悩み過ごして参りました。

この期の川崎区主任児童委員部会は、定数20人のところ欠員1人の19人で、その構成は3期以上4人、2期目5人、新任10人と半数以上が入れ替わってスタートしました。

新任委員さんが多い上に、コロナ禍で研修会や情報交換会等の機会も減少し、地区民児協によって定例会の開催状況の差もあり、何からどう動けばいいのか解からず、とても困惑している方も多くいました。

しかしながら、その一方コロナ禍で益々困窮化し、より一層深い問題を抱える家庭が増加する状況の中で、立ち止まり続けているばかりではられませんでした。

川崎区の区部会としては、感染状況に留意しつつ、できる限り対面（集合）式で、事業計画通り2カ月毎の部会や、年に2回の区部会の研修会を実施して参りました。

研修会の内、視察研修で訪問したのは

- ①川崎区保育・子育て総合支援センター
- ②児童養護施設すまいる
- ③川崎市子ども夢パーク・フリースペースえん

実際に施設訪問すると、正に百聞は一見に如かずで施設の様子は目に焼き付いています。

また、座学研修会も集会式で、川崎区の地区民児協の会長さんたちにもご同席頂き、講師の先生方にも毎回直接会場にお越し頂いて講演をして頂きました。どの講演も印象深く心に刺さる言葉や内容でした。

具体的な行動が何か出来たかどうかは、正直自信はありませんが、コロナ禍にあっても、まずは知る事の1歩から始めて、少しずつでも歩み続けていけたらと考えております。



# 令和4年度 表彰の紹介～おめでとうございます～

(順不同、敬称略)

## 令和4年秋の褒章

### 藍 綬 褒 章

平川 悦子 (川崎区中央第1地区)

## 全国民生委員児童委員連合会会長表彰

### 優良民生委員児童委員協議会表彰

川崎区田島地区民生委員児童委員協議会  
(山木 春雄会長)

### 永年勤続単位民生委員児童委員協議会会長表彰

星川 美代子 (川崎区大師第4地区)  
村田 清子 (幸区日吉第2地区)  
田邊 静江 (中原区大戸第2地区)  
近藤 充紀 (多摩区菅第1地区)  
高橋 勝巳 (宮前区向丘第2地区)

### 永年勤続単位民生委員児童委員協議会役員表彰

佐野 禎彦 (幸区日吉第3地区)

### 民生委員・児童委員功労者表彰(20年表彰)

川崎区13名 幸区7名 中原区9名 高津区2名  
宮前区6名 多摩区2名 麻生区1名 (計40名)

### 永年勤続民生委員・児童委員表彰(10年表彰)

川崎区4名 幸区1名 中原区3名 高津区4名  
宮前区1名 多摩区1名 麻生区3名 (計17名)

## 厚生労働大臣表彰

### 民生委員・児童委員功労者

竹仲 密昭 (高津区高津第3地区)  
向井 ふみじ (中原区大戸第1地区)  
伊藤 孝子 (中原区小杉第2地区)

### 民生委員優良活動団体

中原区小杉第2地区民生委員児童委員協会  
(伊藤 孝子会長)

## 全国社会福祉協議会会長表彰

### 民生委員・児童委員功労者

若桑 美子 (中原区玉川地区)  
仁上 勝之 (中原区住吉第2地区)  
近藤 充紀 (多摩区菅第1地区)

## 理事視察研修の報告

表紙の写真



9月5日(月)～6日(火)に理事31名、事務局1名でバス2台に分乗し、福島県の「震災遺構 浪江町立請戸小学校」と「Jヴィレッジ」を視察してきました。請戸小学校は、東日本大震災の際の大津波により甚大な被害を受けましたが、原発事故による避難指示が解除された後、震災遺構として整備・保存されました。津波で破壊された1階部分に対し、2階部分はほとんど無傷で、まるで別世界のようなでした。また展示パネルからは地震直後の緊迫した状況がひしひしと伝わってきました。Jヴィレッジは原発事故の廃炉拠点になっていましたが、東京オリンピックの開催が決まったことを機に復旧され、今では誰もがサッカーだけでなく様々なスポーツを楽しめる施設となっています。経過について説明を受けた後、ピッチに入って芝生の感触を確かめることができました。

## 編集後記

情報誌編集委員 森 眞澄

未だ終息をみせることのない未曾有のコロナウイルス感染拡大は世の中を驚異的に変容させてきましたが3年経とうとしています。そんななかで私達の活動も制限を余儀なくされ、“今、何が出来るか”を合言葉に皆で前進してまいりました。仲間との連携意識が培ってこられた期間でもあったのではないのでしょうか。時節はいつの間にか一斉改選が目前の頃となりました。退任される方々へこれまでの活動に感謝と敬意の念をあらためて表したいと思います。まだ思うように活動できないもどかしさが寄せられた文章からも伝わってまいります。再任予定の委員の皆様、今後も支え合いの気持ちを大切に共に頑張りましょう。笑顔の人が増えますように。



### 情報誌編集委員会

委員長	小谷田 實
副委員長	仁上 勝之
委員	横島 正志
	内田 章
	竹内 敬二
	浮岳 亮仁
	小池 多恵子
	森 眞澄
若林 豊茂美	

ホームページをご活用ください

委員・事務局専用ページをご覧いただくためには ID とパスワードが必要です。

ID:

パスワード:

